



1キャプテンのかけ声で駆け出す団員たち。後ろで見守るのは右から山本浩監督、山本高光コーチ、塩崎浩己育成会会長。子どもを見つめる目は温かい 2昔を思い出すと止まらない様子。団への思いを語ってくれた山本監督 3練習前、一番乗りした高田萌くんが重い道具を運ぶ 4キャッチボールが一番最初の練習メニュー。丁寧にボールの感触を確かめる 5ぎゅっとバットを握り、ボールを待ち構える小田切翔くん 6体験入団中の上野将輝くん。今後の上達が楽しみ 7キャッチャーからセカンドへ送球。強肩がものをいう 8藤川スポ少のヘルメット。しま模様はかすれ、伝統を感じさせる 9重みのある速球が武器、塩崎卓巳くんのピッチング。一球一球、力いっぱい投げ込む姿が印象的だった



現団員わずか3人。でも続けたい、やめたくない。やっぱりソフトボールが大好きなんだ。

# 藤川ソフトボール スポーツ少年団

子供会の時代を含め、37年の歴史を誇る藤川ソフトボールスポーツ少年団。しかし少子化のあおりを受け、現在休団の危機に瀕している。「それでも、やりたいという子がいる限り、続けていきたい」と山本浩監督の意志は固い。4月中旬、子どもたちのかけ声がこだまする藤川地区グラウンドを訪れた。

**藤川スポ少・団員募集**  
ソフトボールを通して心と体を鍛え、協調性や礼儀なども学びます。秋の招待試合で創部30周年を迎える藤川スポ少。みんなも仲間になりませんか。男女、ご連絡をお待ちしています。育成会会長 塩崎浩己 ☎ (57) 2991

手厚い指導のたまものだろう。「最も、子どもたちが必死で食らいつくナイスキャッチ。目一杯の力でファーストに送球する。その後ろでは、打撃練習を終えた子がバットをグロープに持ち替え、一目散に守備へと向かう。キビキビとした動作。」

山本高光コーチが繰り出すノックに、子どもたちが必死で食らいつくナイスキャッチ。目一杯の力でファーストに送球する。その後ろでは、打撃練習を終えた子がバットをグロープに持ち替え、一目散に守備へと向かう。キビキビとした動作。

この日は、全国大会に向けたポジション確認やピッチングマシンを使った打撃練習などがメイン。塩崎さんがマシンを担当し、監督も子どもと一緒に守備についていた。山本高光コーチが繰り出すノックに、子どもたちが必死で食らいつくナイスキャッチ。目一杯の力でファーストに送球する。その後ろでは、打撃練習を終えた子がバットをグロープに持ち替え、一目散に守備へと向かう。キビキビとした動作。

「わたしが藤川スポ少にかかわって約10年。山本監督の最初の印象は『厳しい人』でした。大きな声も出さず、ときには叱ることもありましても、そこから教わるのがたくさんある。きつとどの子も、どこへ出しても恥ずかしくない子に成長できると思ってたんです。その指導にほれ込んで、自分の子を入団させたくらい。本当にすばらしい監督だと思います。最近は歳のせいかな、少し丸くなりましたけど」と、当時を思い浮かべながら少し笑っていた。

「わたしが藤川スポ少にかかわって約10年。山本監督の最初の印象は『厳しい人』でした。大きな声も出さず、ときには叱ることもありましても、そこから教わるのがたくさんある。きつとどの子も、どこへ出しても恥ずかしくない子に成長できると思ってたんです。その指導にほれ込んで、自分の子を入団させたくらい。本当にすばらしい監督だと思います。最近は歳のせいかな、少し丸くなりましたけど」と、当時を思い浮かべながら少し笑っていた。

練習開始から1時間と少し。今も子どもたちのバットから快音が響いている。来年の今日、ここで同じ音が聞けるようにと願いながら、グラウンドをあとにした。

「今の3人が抜けたあと、団がどうなるか、今はまだ分かりません。現在、勧誘も熱心に行っていますが、なかなか難しい。でもね、やりたいと思う子がいるうちは続けていきたいんですよ。ソフトが好きだし、何より子どもたちが好きだから。じやなきゃ、30年もやれませんかよ。」

「今の3人が抜けたあと、団がどうなるか、今はまだ分かりません。現在、勧誘も熱心に行っていますが、なかなか難しい。でもね、やりたいと思う子がいるうちは続けていきたいんですよ。ソフトが好きだし、何より子どもたちが好きだから。じやなきゃ、30年もやれませんかよ。」

「わたしがPTA副会長を務めた37年前。子供会の球技大会が始まりました。そこで副会長職のかたわら、子どもたちの指導をするようになったんです。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。今も昔も、保護者の理解と協力がなければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも子どもたちに教えていけたらと思っ

「わたしがPTA副会長を務めた37年前。子供会の球技大会が始まりました。そこで副会長職のかたわら、子どもたちの指導をするようになったんです。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。今も昔も、保護者の理解と協力がなければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも子どもたちに教えていけたらと思っ

「わたしがPTA副会長を務めた37年前。子供会の球技大会が始まりました。そこで副会長職のかたわら、子どもたちの指導をするようになったんです。当時はソフトボールが盛ん。試合に勝つと、保護者と一緒になつて涙を流して喜んだものです。今も昔も、保護者の理解と協力がなければ団は成り立ちません。送り迎え一つとってもそう。そんなことも子どもたちに教えていけたらと思っ



ここにも、一つの物語。広報かわねほんちよう